

按鳥蛤形色似蛤蜊而圓肥大三寸許殼薄灰白色有縱細理而略似蚶而白色帶淡紫假令板屋此亦名柿屋子可矣乎內正紅其腸有細色汁肉狀如鳥喙故俗名鳥貝所謂爵入大水化爲蛤者此乎然攝州尼崎多有之冬春盛出未聞有他國漁人去殼販之有白丁如指大擣爲魚餅送于他邦其肉炙食甘美煮亦佳最下品爲賤民之食無毒但貓食鳥蛤腸則耳脫落也又云鳥蛤腹有小蟹大如豆是此瑣瑣之類乎所食之蟹乎

〔毛吹草〕和泉 鳥貝

〔毛吹草〕讚岐 忘貝 蛤ノナリニ

〔貞盡浦之錦〕忘介右一

蛤類 かいふかくたつに筋細くふかく入玄ほふき介に似て別也○下

〔萬葉集雜歌〕太上天皇○持幸子難波宮時歌○中

大伴乃美津能濱爾有忘貝家爾有妹乎忘而念哉

右一首身人部王

〔萬葉集雜歌〕同○天平二年大伴坂上郎女海路見濱貝作歌一首

吾背子爾戀者若暇有者捨而將去戀忘貝

〔玉左目記〕西日〇承平五年このとまりのはまの浦にはくさぐのうるはしきかひいしなどおほかりがればたむかしの人のみ恋つ、ふねなる人のよめるよするなみうちもよせなむわがこふる人わすれがひおりてひろはんといへればある人のたへずじて、ふねの心やりによめる

わすれがひひろひしもせじ志ら玉をこふるをだにもかたみとおもはむ、となんいへる、をんなごのためには、おやをさなくなりぬべし、玉ならずもありけんをと人いはんや、○下